



NO.

いちょう

発行所

待乳山 本龍院

〒111 東京都台東区浅草7-4-1

-0032 TEL. 03(3874)2030

FAX. 03(3874)5280

読経の心得

住職 平田真純

待乳山のお堂でお経を読むときの心得を、気が付くままに申し上げてみます。

＊身だしなみを整える

参堂するときには、なるべく清潔な身だしなみを心がけましょう。もちろんその時々事情はあると思いますが、身なりを引き締めると心も引き締まります。

＊心身を浄める

読経を始める前には、心身を浄めるということがとても大切です。水屋で手を洗い、口を漱ぐことは必ず励行します。他にも任意ではありますが、線香、ろうそく、花、大根、お賽銭などを供えるのも、心を浄めることにつながります。線香は、その香りをもって周囲を浄めます。ろうそくは、その明かりをもって心の目を浄めることにもなります。花や大根、あるいはお賽銭などを供えることは、欲心を離れ、ご本尊より功德をいただくという意味でも、やはり心を浄めることになります。また、数珠を擦ったり、鰐口を鳴らしたりすることも、音で周囲や自身の心を浄める意味もあります。

お寺で行う作法のほとんどは、浄める作法といっても過言ではありません。澄んだ心というものは「平常心」にほかなりません。

＊居ずまいをたただす

よい姿勢をとることは、心を整えるためにも大切なことです。背筋を伸ばし、肩の力を抜き、呼吸を整えます。見た目の姿をよくすることも周囲の雰囲気をよくすることになります。

＊読経中に心をそらさない

どんなスポーツでも、前後左右どう動いてもぶれないという体幹は重要です。心も前のめりになっていたり、ふらふらと安定していなかったら、ろくな結果にならないでしょう。心の中心を支える力がぶれないよう、お経の一字一句から心をそらさないように心がけましょう。

集中力が途切れた時は、顔の中心、鼻の頭に神経を集中させると効果的です。

現実的な御利益という意味でも、精神修養という意味でも、読経に集中することで、客観的に自己や置かれた状況に気づくことは有意義であると思います。功德を信じましょう。

待乳山便り

畑中講 報告

五月二十七日、畑中講の大般若法要を執り行いました。畑中講は創立から四十四年を迎える伝統ある講です。講を立ち上げた畑中玲泉様は十年前に亡くなられましたが、御子息である畑中秀俊様に引き継がれ、いまだに多くのお申込みがあります。法要終了後は、講師の皆様と住職とで毎年恒例となる記念撮影を行い、大広間にて歓談されました。



林屋講 報告

五月三十一日、新たに発足した林屋講の大般若法要を執り行いました。当講を立ち上げた林屋克三郎様は聖天信仰の手引きを著された林屋友次郎様の孫にあたります。十一名の講師の皆様が出席され、住職のお加持したお札を受け取られました。



お宮参り

高尾奏帆ちゃん（上段）、新畑千尋ちゃん（下段）のお宮参りを行い、行者様よりご加護を授かりました。尊天様のご加護を受けて、健康に成長されることをお祈りしております。



御奉納

酒井喜生様より、ご祈禱の際、祈禱壇に降るす夏の緞帳どんちょう一張をご奉納いただきました。



新総代任命

六月一日付けをもって、竹中輝夫様が新たに信徒総代に就任いたしました。

七月御縁日大法要・行事紹介

出世観音供養会

七月十七日(火) 午前十一時

講金 一、五〇〇円

七月十七日、出世観音供養会を執行いたします。昭和九年、境内周辺の擁壁工事を行った際、土中より現れた観音様のご尊首にふさわしいご尊体をお造りし、昭和十一年に開眼供養を行いましたのが、現在当山における出世観音菩薩となります。以来、長い間お隠れになっていたお姿が現れたことから、これから世に出ようとする芸事や学業に励む方を助ける出世観音として多くの方に信仰を集めております。講に申し込まれた方には、開運の飴を授与いたします。出世観音様とご縁を結ぶためにぜひご参加ください。



常香講

七月二十日(金) 午前十一時

講金 一、五〇〇円

七月二十日、聖天様にお供えするお香を供養する常香講を執行いたします。

先日、待乳山でも香の席を設けましたが、仏教は今私たちが親しんでいるお香と密接な関係があります。

仏教発祥の地であるインドは、数多くの香木の産地でした。仏教が普及すると同時に、供養のために香を炊く文化が産まれます。悪臭を払う香の香りは不浄を払い心身を清浄に保つと考えられ、仏教の伝播と共に各地に広まってきました。

日本でもお香は仏教と共に伝来しました。中でも重要な役割を果たしたのが、唐から日本に渡来し、日本律宗の開祖となった鑑真和尚です。香についても造詣の深かった鑑真和尚は、薫物たきものと呼ばれる数種類の香料を練り合わせる風習を日本にもたらします。この薫物は『源氏物語』や『枕草子』に出てくるように、貴族の間で部屋や衣類に香りを付けるものとして取り入れられました。仏に供える香はこうして、私たちの身近にある日常の香としても根付いていったのです。

講に申し込まれた方には内陣にて焼香していただき、塗香を授与いたします。



大聖歡喜天利生記

神仏が衆生に利益を与えることを利生と呼びます。かつての当山誌『歡喜』に掲載された信仰体験談をシリーズで紹介いたします。

先月号に引き続き、本堂の畳替えを今でもされている佐々木畳店の先代のお話です。

私の信仰 ③

佐々木秋雄

(歡喜十八号 昭和四十八年発行より)

職人の移り変り

昔は通常、十五、十六才で尋常小学校を卒業すると、そのまま弟子入りしました。休日は一日と十五日の毎月二回、我が家に帰るのは、お盆と正月だけです。兵隊検査が済んで一人前になると他所へ修行に出されます。昔の親方は仕込むだけ仕込み終ると、勉強のため、他人の飯を喰わせませす。矢張り他人の親方につく方が、自分の実力をつけるにも必要だと思います。それでこそ社会の人間の生き方が理解できるのです。弟子は道具を担いで新しい親方の家を探しました。

新しい親方に「何処で仕込まれたのか。」と尋ねられ、すぐに親方同士で連絡をつけます。「それではうちでやらせてみよう。」となると、大体一週間、毎日違った仕事をやらせてみせます。まあ試験ですね。親方は長火鉢の前に坐って見ています。それで大体の仕事振りや出来上がった品を見て、合

格点となつて初めて賃金がいくらと決定されます。仕事に対する厳しさがありませんが、親方と弟子との間に家族の一員の様な親しさがありません。このような形は畳屋に限らず、大工でも何でも職人として共通したものがあつたと思います。

今の若い職人は、すべて機械に明るく、技術屋と呼んでよいと思います。例えば大工さんにしても、昔はカンナのかけ方、ノミの使い方、年季を入れたのが、今はすべて機械を上手に使いこなすのが一人前の道です。これから益々そういう道に向かつていくと思います。

昔の職人は道楽も随分やりました。いくら一晩明かしても、翌日は人一倍早く起きて仕事をやりました。だから息子にも言うんです。「若い時はいくら遊んでも良い。然し他人に起こされるようじや駄目だ。」その点、昔の若いの方が根性があつたと思います。

信仰のある人生

私は永い信仰の末に何よりも一番に思うことは、矢張り身体を動かして健康で、分に応じた楽しみをもって愉快に暮らせることが人間として最大の喜びだと思ひます。

お山にお参りに来られる方の中には随分多勢親しくなつた方がございます。職業や年齢地位財産すべて違つていても、信仰して辿りつくところはみんな同じように思われますし、皆強い根性を持つておられるように思ひます。

私の体験からしてもどうにもならないような土

壇場に遇つても、思いがけないようなお救いを受けるのです。尊天様の有難いところはそういう目にあつて初めて解ります。いわば信仰の積み重ねです。

私はこれからも毎朝お参りしていくつもりです。

(終り)

信徒旅行のお知らせ

十月二十八日(日)〜十月二十九日(月)

今年の信徒旅行は奈良にある宝山寺(生駒聖天)、大阪にある石切神社、四天王寺を巡る参拝旅行を行います。

宝山寺は古くから修験道場



宝山寺(生駒聖天)

として知られ、江戸時代に宝山湛海律師が聖天様をお祀りすることで再興されたお寺です。こちらでは大般若法要に随喜し、聖天様を祀っている聖天堂を参拝する予定です。

石切神社は地元では「石切さん」と親しまれる古い神社。石を切る鋭い劔や矢を意味する名前で、腫れ物を治療する神様として有名な神社です。神社の参道(石切商店街)は下町風情の残る商店街です。

四天王寺は聖徳太子によって建立されたお寺で、現在では和宗の総本山となっています。普段では参拝できないお堂等をお参りいたします。

応募締切 九月二十七日

参加費 五万八千円(宿泊、交通費等含む)

定員四十名(最少催行三十名)

七月行事予定

御縁日大法要

出世観音供養会

七月十七日(火) 午前十一時 講金 一、五〇〇円也

参道の出世観音様をご供養いたし、特に学業・芸事・開運・出世をご祈願します。

常香講大法要

七月二十日(金) 午前十二時 講金 一、五〇〇円也

ご祈祷に用いるお香を供養いたします。

朝まいり会

七月一日〜七日 午前八時から八時半 会費 五〇〇円也

都合のよい日に、ご参加くださっても結構です。

日曜勤行

七月八日(日) 午前九時 参加費 無料

初心の方も気軽にご参加いただけるおつとめの会です。

写経の会

七月八日(日) 午前十時/午後一時 会費 五〇〇円也

心を落ち着かせて写経することで、日常を離れ、自分を見つめ直しましょう。

午後は空いていますので、落ち着いて写経が行えます。

坐禅の会

七月二十一日(土) 午後五時〜七時 定員三十名 参加費 五〇〇円也

本堂にて坐禅を行います。定員になり次第、募集を締め切らせていただきます。

合同大般若法要

七月二十五日(火) 午前十一時 法要料 五、〇〇〇円也

心願が成就し、より一層の御加護を頂くために、皆さんとご一緒に仕上げする御礼の法要です。

八月の行事 御縁日大法要

灯明講 八月二十日(月) 午前十一時 講金一、五〇〇円也

祈祷のご案内

祈祷料

聖天様独特の供養法である

浴油供は、密教の中で最も深秘の法とされています。この供養法は聖天様のお力がより一層高められ、私どもが不可能と思われるような願い事でも、尊天様の不思議方便のお働きを得て、必ず成就させて頂けるのであります。

法要案内

当山ではこの浴油祈祷を、毎朝開堂と同時に厳修しております。寺務所にて受け付けておりますので、お名前とお願いの内容、祈祷期間をお伝え下さい。

別座祈祷 壱万円(一週間)

浴油祈祷 三千五百円(一週間)

華水供 五百円(一日)

百味供養 法要料 八万円

沢山のお供物をお供えし、出仕の僧侶が声明をお唱えすることで、尊天さまに御礼の供養をいたします。

大般若法要 法要料 五万円

所願成就御礼の法要として、大般若経六百巻を転読いたします。

自動車加持 法要料 壱万円

当院にてお車のお加持をいたします。当日はお車にてお越しください。

皆様からのご質問、お知りになりたいことを受け付けております。ご意見やご質問は ityou@matsumichiyama.jp までメールをお送りください。